

製品名: ROR α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17327**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、猿
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	RORA
別名	RORA; NR1F1; RZRA; Nuclear receptor ROR-alpha; Nuclear receptor RZR-alpha; Nuclear receptor subfamily 1 group F member 1; Retinoid-related orphan receptor-alpha
遺伝子 ID	6095.0
SwissProt ID	P35398
免疫原	抗血清はヒト RORA 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 6-55

背景

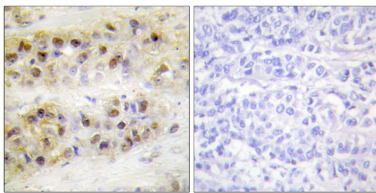
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、核ホルモン受容体の NR1 サブファミリーに属します。このタンパク質は、モノマー

またはホモダイマーとして複数の遺伝子上流にあるホルモン応答配列に結合し、それらの遺伝子の発現を増強します。このタンパク質は、器官形成および分化に関するヌクレオシド二リン酸キナーゼ NM23-2、ならびに腫瘍転移抑制因子候補遺伝子の産物である NM23-1 と相互作用することが示されています。また、概日リズムに関するいくつかの遺伝子の転写調節にも関与することが示されています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 4 つの転写バリエーションが記載されています。[RefSeq 提供、2014 年 2 月]、機能: オーファン核受容体。短い AT に富む配列に続く単一のコアモチーフ半部位を含むホルモン応答配列 (HRE) に、モノマーとして DNA を結合します。この異性体は、コンセンサス配列 5'-[AT][TA]A[AT][CGT]TAGGTCA-3' に結合します。、類似性:核ホルモン受容体ファミリーに属します。、類似性:核ホルモン受容体ファミリーに属します。NR1 サブファミリー。、類似性:1 つの核受容体 DNA 結合ドメインを含みます。、サブユニット:モノマー。、

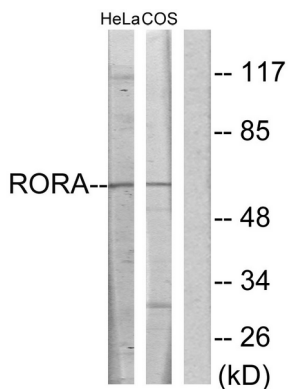
研究分野

核シグナル伝達経路、核受容体、レチノイン酸およびレチノイド、エピジェネティクスと核シグナル伝達、細胞周期、細胞分化、がん、シグナル伝達、核シグナル伝達、核ホルモン受容体、レチノイン酸およびレチノイド、神経科学、神経プロセス、神経シグナル伝達、細胞生物学

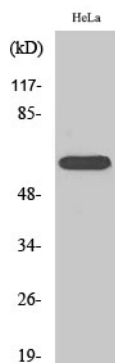
画像データ



RORA 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



RORA 抗体を用いた HeLa 細胞および COS7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



RORα ポリクローナル抗体を用いたさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。

